

プレスリリース

NPO 法人 大気イオン地震予測研究会 e-PISCO

平成 18 年 5 月 26 日

報道関係各位

大気イオン濃度測定器 徳島大学工学部に設置

NPO 法人大気イオン地震予測研究会 e-PISCO(理事長：弘原海^{わだつみ}清^{きよし} =大阪市立大学名誉教授、事務局：大阪市西区)では、大気イオン濃度の急上昇が大地震の有力な前兆現象と考え、大気イオン濃度測定器の研究開発および全国展開を進めてきました。このたび、全国 10 点目となる大気イオン濃度測定点を徳島大学工学部に設置、稼働を開始することとなりました。四国地方で初の測定点であり、中央構造線の南側(西南日本外帯)においても初の測定点となります。新測定点は、懸念される中央構造線での大地震や南海地震の震源域に近く、これらの予兆を捕捉するのに極めて重要なところに位置しています。また、既設の 兵庫・南あわじ測定点とは直線距離で 21km であり、測定データの品質向上にもつながると考えております。

なお、新測定点の設置作業は 29 日(月)13 時頃から徳島大学工学部物理学教室で行う予定にしております。

報道各位には、ご多忙中恐縮ではありますが、本件の周知ならびに取材を賜れば幸いです。

弊会の詳細につきましては、下記ホームページをご覧ください。

<http://www.e-pisco.jp/>



独自開発の大気イオン濃度測定器

e-PISCO大気イオン濃度測定網
2006年6月現在 10測定点



本リリースの問い合わせ先

NPO 法人 大気イオン地震予測研究会 e-PISCO

理事(事務局長兼務) 岡本 和人

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目4-21

日宝肥後橋中央ビル304号

Tel/Fax : 06-6444-3781 E-mail : npo@e-pisco.jp

※ 当日は事務局が不在になりますので

携帯 080-5236-6409 までご連絡ください。

イオン観測で地震予知

徳島大学大学院
物理学教室 大気中濃度測定へ

徳島大学大学院ソシオ
テクノサイエンス研究部
物理学教室が近く大気中
イオン濃度の測定器を設
置し、六月から観測を始
める。地震と大気中イオ
ン濃度の関係を研究して
いる弘原海清・元岡山理
科大学教授(左)が開発し
た測定器で、元教授が理
事長を務めるNPO法人
「大気イオン地震予測研
究会」が結果を分析して
地震予知を目指す。十九
日には弘原海清教授が徳
大で講演、測定器の仕組
みを学生らに紹介した。
測定器は、直径五センチ、
長さ八十センチの円筒形で重
さ十一キログラム。本体に三脚を
取り付けた形で、測定
後、結果が自動的にイン
ターネットで同NPO法
人に送られ、分析され
る。これまでに千葉大学
や神奈川工科大学のほ
か、民間企業など全国九
カ所に設置されていて、
設置者は互いに観測情報
を共有できる。
弘原海清教授による
と、地震発生前には元素
の一つであるラドンのガ
スが地殻の割れ目から放
出され、大気中でプラス
イオンとなって変化して

イオン濃度を上昇させる
とされる。イオンは電氣
を帯びた分子で、通常は
大気中に一立方センチたり
三千個以下だが、一九九
五年一月の阪神大震災前
では一万五千個、今年五
月八日に瀬戸内海中部で
マグニチュード(M)4
・2を記録した地震で
も、五万個まで急増した
測定地もあったという。
徳大では、物理学教室
が測定器をレンタルし、
測定結果を同NPO法人
のホームページ(Url:
//www.e-pisco.jp)
で公開する。設置を決め
た大野隆教授は「弘原海

さんの理論に共感してお
り、設置によって南海・
「げたい」と期待している。



学生らに大気中イオン濃度測定器を説明する
弘原海・元岡山理大教授(左)＝徳島大図書館